

週休 2 日工事
(土木工事・発注者指定方式) の
積算について

令和 6 年 11 月 (一部改定)

大阪市水道局

工務部土木施設課技術監理担当

1. 適用

発注者指定方式による週休2日工事（4週8休以上）の積算について、補正方法及び設計変更は次のとおり取扱うものとする。

なお、本資料は土木工事に適用する。

2. 補正対象

直接工事費及び共通仮設費（積上げ分）に計上される単価のうち、以下に示す単価に対して週休2日工事の補正を適用した単価を使用する。

- ・ 労務費
- ・ 機械経費（賃料）
- ・ 土木工事市場単価
- ・ 土木工事標準単価

なお、「土木工事標準単価」については、「土木コスト情報」及び「土木施工単価」（以下「物価資料」）に掲載の単価を使用しており、補正済単価（同工種）が「物価資料」の両方に掲載されている場合は安価側の単価、一方の「物価資料」のみに掲載されている単価は当該単価とする。

また、見積単価は補正対象外とする。

3. 補正方法

前項の補正対象に対して、各々設定された「補正係数」を乗じることとする。補正係数は表1、表2及び表3のとおりとし、表2、表3においては、「現場閉所・通期」を適用する。

表1 労務費等の補正係数

労務費	1.02
機械経費（賃料）	1.02
共通仮設費率	1.02
現場管理費率	1.03

表２ 市場単価方式による週休２日の取得に要する費用の計上に関する補正係数

名称	区分	補正係数			
		現場閉所		交替制	
		通期	月単位	通期	月単位
鉄筋工		1.02	1.04	1.02	1.04
ガス圧接工		1.02	1.03	1.02	1.03
インターロッキングブロック工	設置	1.01	1.01	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.04	1.02	1.04
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.01	1.00	1.01
	撤去	1.02	1.04	1.02	1.04
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.01	1.00	1.01
	撤去	1.02	1.04	1.02	1.04
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.02	1.04	1.02	1.04
	撤去	1.02	1.04	1.02	1.04
防護柵設置工（落石防護柵）		1.01	1.01	1.01	1.01
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.02	1.01	1.02
道路標識設置工	設置	1.00	1.01	1.00	1.00
	撤去・移設	1.02	1.03	1.01	1.03
道路付属物設置工	設置	1.01	1.01	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.04	1.02	1.04
法面工		1.01	1.02	1.01	1.02
吹付砕工		1.01	1.03	1.01	1.03
鉄筋挿入工（ロックボルト工）		1.02	1.03	1.01	1.03
道路植栽工	植樹	1.02	1.04	1.02	1.04
	剪定	1.02	1.04	1.02	1.04
公園植栽工		1.02	1.04	1.02	1.04
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.01	1.02	1.01	1.02
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.02	1.04	1.02	1.04
橋面防水工		1.01	1.01	1.01	1.01
薄層カラー舗装工		1.00	1.01	1.00	1.01
グルーピング工		1.00	1.01	1.00	1.01
軟弱地盤処理工		1.01	1.02	1.01	1.02
コンクリート表面処理工（ウォータージェット工）		1.01	1.01	1.01	1.01

表3 土木工事標準単価による週休2日の取得に要する費用の計上に関する補正係数

名称	区分	補正係数			
		現場閉所		交替制	
		通期	月単位	通期	月単位
区画線工		1.02	1.04	1.02	1.04
高視認性区画線工		1.02	1.04	1.02	1.04
橋梁塗装工		1.01	1.03	1.01	1.03
構造物とりこわし工	機械	1.02	1.03	1.01	1.03
	人力	1.02	1.04	1.02	1.04
コンクリートブロック積工		1.02	1.04	1.02	1.03
排水構造物工		1.02	1.04	1.02	1.03
鋼製排水溝設置工		1.02	1.04	1.02	1.04
表面被覆工(コンクリート保護塗装)	固定足場	1.01	1.02	1.01	1.02
	高所作業車	1.01	1.02	1.01	1.02
表面含浸工	固定足場	1.02	1.04	1.02	1.04
	高所作業車	1.02	1.04	1.02	1.03
連続繊維シート補強工	固定足場	1.02	1.04	1.02	1.04
	高所作業車	1.02	1.04	1.02	1.03
剥落防止工（アラミドメッシュ）	固定足場	1.02	1.04	1.02	1.04
	高所作業車	1.02	1.04	1.02	1.03
漏水対策材設置工	固定足場	1.02	1.04	1.02	1.04
	高所作業車	1.02	1.04	1.02	1.03
防草シート設置工		1.01	1.03	1.01	1.03
紫外線硬化型FRPシート設置工（ポリエステル樹脂）	固定足場	1.01	1.02	1.01	1.02
	高所作業車	1.01	1.01	1.01	1.01
塗膜除去工		1.02	1.04	1.02	1.04
バキュームブラスト工		1.01	1.01	1.00	1.01
道路反射鏡設置工	設置	1.00	1.01	1.00	1.01
	撤去	1.02	1.04	1.02	1.04
仮設防護柵設置工（仮設ガードレール）		1.02	1.04	1.02	1.04
機械式継手工		1.02	1.04	1.02	1.04
抵抗板付鋼製杭基礎工		1.02	1.03	1.01	1.02
ノンコーキング式コンクリートひび割れ誘発目地設置工		1.01	1.01	1.01	1.01
FRP製格子状パネル設置工		1.00	1.00	1.00	1.00
侵食防止用植生マット工（養生マット工）		1.02	1.04	1.02	1.04
支承金属溶射工		1.02	1.04	1.02	1.04
耐圧ポリエチレンリブ管（ハウエル管）設置工		1.02	1.03	1.02	1.03

4. 算出例

(1) 労務費

労務単価について週休2日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

(計算例)

1) 週休2日工事の補正(補正係数: 1.02)

$$\begin{aligned} &\cdot \text{普通作業員} : 21,800 \times 1.02 \\ &= 22,236 \\ &= \underline{22,240 \text{ 円/人} \cdot \text{日}} \end{aligned}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

2) 時間的制約を受ける労務補正(6%)と週休2日工事の補正(補正係数: 1.02)

$$\begin{aligned} &\cdot \text{普通作業員} : 21,800 \times 1.06 \times 1.02 \\ &= 23,570.16 \\ &= \underline{23,570 \text{ 円/人} \cdot \text{日}} \end{aligned}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

3) 夜間工事の労務補正(50%)と週休2日工事の補正を行う場合(補正係数: 1.02)

$$\begin{aligned} &\cdot \text{普通作業員} : 21,800 \times 1.50 \times 1.02 \\ &= 33,354 \\ &= \underline{33,350 \text{ 円/人} \cdot \text{日}} \end{aligned}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

(2) 機械経費(賃料)

機械経費(賃料)について週休2日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

(計算例)

1) 週休2日工事の補正(補正係数: 1.02)

$$\begin{aligned} &\cdot \text{バックホウ(クローラ)} [\text{標準} \cdot \text{クレーン機能付き}] \text{ 山積 } 0.8\text{m}^3 \\ &\quad (\text{平積 } 0.6\text{m}^3) \text{ 2.9t 吊トラッククレーン(賃料)} \quad \text{※長期割引適用} \\ &\quad : 10,270 \times 1.02 \\ &= 10475.4 \\ &= \underline{10.500 \text{ 円/日}} \end{aligned}$$

※補正後単価は、有効数字3桁(4桁目四捨五入)

(3) 土木工事市場単価

土木工事市場単価について週休2日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

(計算例)

1) 週休2日の補正(補正係数: 1.01)

週休2日の補正後単価＝補正前単価×週休2日の補正係数

・インターロッキングブロック工(設置、直線配置、100m²以上、標準品、厚6cm)

$$: 5,800 \times 1.01$$

$$= \underline{5,858.00 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第2位止め(第3位切捨て)}$$

2) 加算率・補正係数による割増と週休2日の補正(補正係数: 1.01)を行う場合(例: 夜間作業補正(1.15)を行う場合)

週休2日の補正後単価＝(補正前単価×週休2日の補正係数)
×夜間作業補正係数

・インターロッキングブロック工(設置、直線配置、100m²以上、標準品、厚6cm)

$$: (5,800 \times 1.01) \times 1.15$$

$$= 5,858 \times 1.15$$

$$= \underline{6,736.70 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第2位止め(第3位切捨て)}$$

(4) 土木工事標準単価

土木工事標準単価について週休2日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

(計算例)

1) 週休2日の補正(補正係数: 1.02)

週休2日の補正後単価＝補正前単価×週休2日の補正係数

・構造物とりこわし工(無筋構造物、機械施工、時間的制約なし、昼間)

$$: 7,738 \times 1.02$$

$$= \underline{7,892.76 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第2位止め(第3位切捨て)}$$

2) 加算率・補正係数による割増と週休2日の補正(補正係数: 1.02)を行う場合(例: 低騒音・低振動対策(1.3)を行う場合)

週休2日の補正後単価＝(補正前単価×週休2日の補正係数)
×低騒音・低振動対策補正係数

- ・ 構造物とりこわし工（無筋構造物、機械施工、時間的制約なし、
屋間、低騒音・低振動対策必要）

$$\begin{aligned}
 & : (7,738 \times 1.02) \times 1.3 \\
 & = 7,892.76 \times 1.3 \\
 & = 10,260.588 \\
 & = \underline{10,260.58 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第2位止め（第3位切捨て）}
 \end{aligned}$$

（５）施工パッケージ型積算方式の積算単価

上述（１）～（３）の方法による補正済の労務費・機械賃料・市場単価を用いて算出する。

（計算例）週休２日の補正（補正係数：1.02）

- ・ コンクリート（無筋・鉄筋構造物、バックホウ（クレーン機能付）
打設、24-12-25（20）（高炉）、一般養生、全ての費用）

標準単価：33,754 円

補正後積算単価： 41,070 円

※積算単価は、有効数字４桁（５桁目切上げ）

項目		代表機労材規格	構成比 (%)	標準単価 (R5.4)	大阪単価 (R6.11基準)	補正対象
機械（K）			3.79	－	－	
	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2011年規制）〕 山積0.8m3（平積0.6m3）吊能力2.9t 賃料	3.58	9,840	10,270	○
	K2		－	－	－	
	K3		－	－	－	
労務（R）			35.68	－	－	
	R1	特殊作業員	10.28	26,700	25,700	○
	R2	普通作業員	9.55	23,900	21,800	○
	R3	土木一般世話役	7.1	28,900	27,500	○
	R4	運転手（特殊）	6.64	27,700	25,600	○
材料（Z）			60.53	－	－	
	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25（20）	58.7	18,500	25,700	
	Z2	軽油 1,2号 バトロール給油	1.73	134	139	
	Z3		－	－	－	
	Z4		－	－	－	
市場単価（S）			－	－	－	
	S1		－	－	－	

積算単価P'の算出式

- ・標準単価： P
- ・機械賃料： K1t'、K2t'、K3t' ※賃料：週休2日補正対象
- ・労務費： R1t'、R2t'、R3t'、R4t'
- ・市場単価： S1t'
- ・構成比（％）： Kr、Rr、Zr、Sr

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r + Z3r + Z4r} \\ + \left(\frac{S1r}{100} \times \frac{S1t'}{S1t} \right) \times \frac{Sr}{S1r} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

：週休2日工事補正後の値

（6）共通仮設費率

共通仮設費率について施工地域補正等補正後の共通仮設費率に対して、週休2日工事の補正係数を乗じた共通仮設費率を算出する。

（計算例）

施工地域補正（大都市 1.50）及び週休2日工事の補正（補正係数：1.02）を適用する場合（開削工事及び小口径推進工事、共通仮設費対象額：10,000,000 円とする）

・共通仮設費率（補正前）：13.32%

・共通仮設費率（補正後）：

$$[13.32\% \times 1.50 \text{（施工地域補正係数）}] \times 1.02$$

$$= 19.980 \times 1.02$$

$$= 19.98 \times 1.02 \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$$

$$= 20.3796$$

$$= \underline{20.38\%} \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$$

（7）現場管理費率

現場管理費率について施工地域補正等補正後の現場管理費率に対して、週休2日工事の補正係数を乗じた現場管理費率を算出する。

（計算例）

施工地域補正（大都市 1.20）及び週休2日工事の補正（補正係数：1.03）を適用する場合（開削工事及び小口径推進工事、現場管理費対象額：10,000,000 円とする）

- ・ 現場管理費率（補正前）：37.79%
- ・ 現場管理費率（補正後）：
 $[37.79\% \times 1.20 \text{（施工地域補正係数）}] \times 1.03$
 $= 45.348 \times 1.03$
 $= 45.35 \times 1.03 \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$
 $= 46.7105$
 $= \underline{46.71\%} \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$

5. 設計変更

現場閉所の達成状況が4週8休に満たない場合は、精算時に補正分の減額変更を行う。